

SARAH BLOOM RASKIN

Former United States Deputy Secretary of the Treasury

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Topics

- Climate Change
- Economics
- Financial
- Government
- Women

元米国財務省副長官のサラ・ブルーム・ラスキン氏は、2021年にコリン・W・ブラウン法律実務特別教授に任命されました。同氏はデューク大学リスクセンターの上級研究員でもあります。ラスキン氏は以前、デューク大学の法律実務客員教授およびルーベンスタイン・フェローを務めていました。

ラスキン氏は2014年から2017年まで財務省の副長官を務め、米国民の共通の繁栄、国の重要な金融インフラの回復力、金融市場における消費者保護策の防衛を強化するための革新的なソリューションの追求で知られていました。国内外で金融セクターのサイバーセキュリティの推進者であり、この問題を企業の幹部や役員会に訴える活動に尽力しました。金融セクター向けサイバーセキュリティのG7基本要素の開発を主導するなど、彼女の取り組みは、ますます頻繁かつ巧妙化する脅威に直面する金融セクターの安全性と回復力の向上に貢献しました。

ラスキン氏は以前、連邦準備制度理事会理事および連邦公開市場委員会委員を務め、国の金融政策の実施と金融安定の促進に貢献した。また、2007年から2010年までメリーランド州の金融規制委員も務めた。彼女と彼女の機関は、大不況の最中にメリーランド州の金融機関の規制を担当した。

ルーベンスタイン フェローとして、ラスキン氏は大学全体の教員と協力し、市場と規制に関する理解を深めました。同氏は、金融市場における規制と回復力との新たな関係の構築と、金融商品、サイバー侵害、気候イベントなどさまざまな原因によるシステミック リスクの管理に関する理解を深めることに重点を置いた議題を主導しました。また、公共部門でのキャリアについて学部生と大学院生を指導および助言し、講義でゲスト講師を務め、公開イベントに参加し、共同研究プロジェクトを主導しました。

ハーバード大学ロースクールの卒業生であるラスキン氏は、これまでのキャリアを通じて、法務および規制の両面で公共部門と民間部門の両方で活躍してきました。同氏の仕事は、金融機関、金融市場の公共事業、消費者保護問題、気候リスクに関連する金融規制ツールの適応、強化された健全性基準、および解決計画が中心です。同氏の民間部門での経験には、プロモントリー・ファイナンシャル・グループのマネージング・ディレクター、ワールドワイド・リテール・エクステンジの顧問弁護士、アーノルド・アンド・ポーター法律事務所およびメイヤー・ブラウン法律事務所での勤務が含まれます。同氏はキャリアの初期には、米国上院銀行 住宅 都市問題委員会の銀行顧問を務めていました。

彼女は現在、ローレンス・バクスター教授、ジーナ・ゲイル・フレッチャー教授とともに、気候変動経済における財政、金融、規制政策の活用に焦点を当てた法律、経済、公共政策の第一人者で構成される再生型危機対応委員会のメンバーです。